

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に関する事例調査（平成18年度）

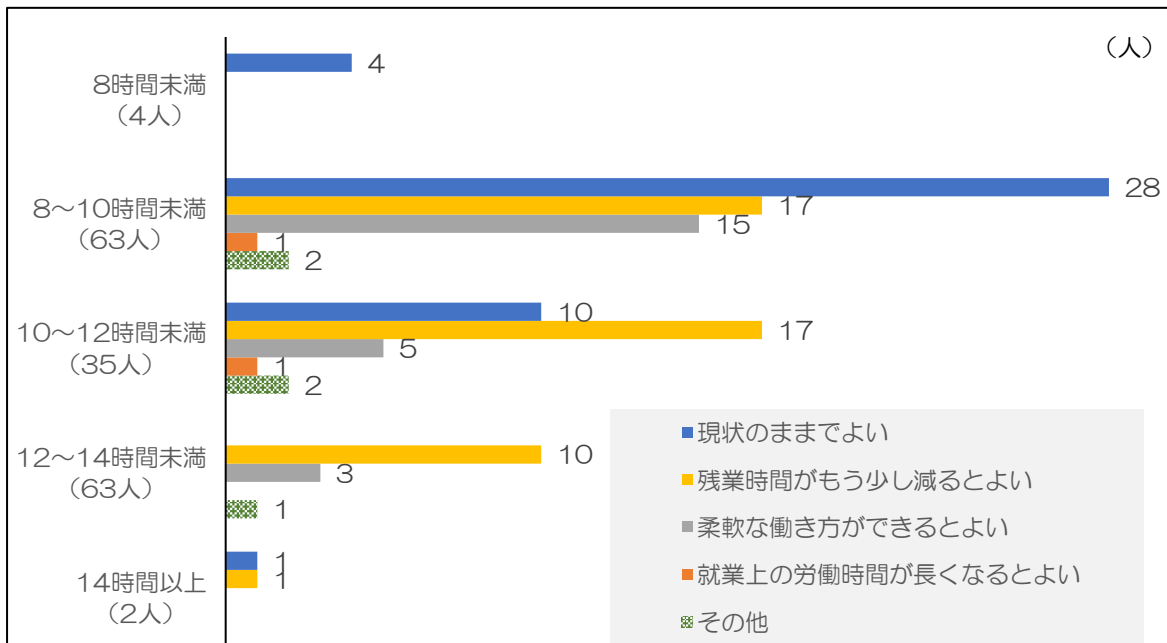
この調査は、家庭を持つ男性が子育てや家事にどれくらい関わることができるのか、もしくはできないのか、現状と意識をとらえるために、仕事と生活のバランスをテーマに行いました。

■調査内容

まず、仙台市内の企業にアンケート調査票を送付し（全500部）、家庭を持つ男性従業員から回答をいただけるよう依頼しました。有効回収数118（有効回収率23.6%）。次に、アンケートに回答いただいた男性を中心に、市民調査員がインタビューしました。主なインタビュー内容は、生活面は家族で夕食をとる日数、子どもと接する時間、家事時間、自分の時間、地域活動などで、仕事面は1日の労働時間、現在の労働時間についてどう考えるか、などです。インタビューした男性従業員数は40名です。調査期間は平成18年6月～11月。

■現在の労働時間についての考え

現在の労働時間が10時間以上の場合、「残業時間がもう少し減るとよい」が多い



<現在の労働時間についての考え>

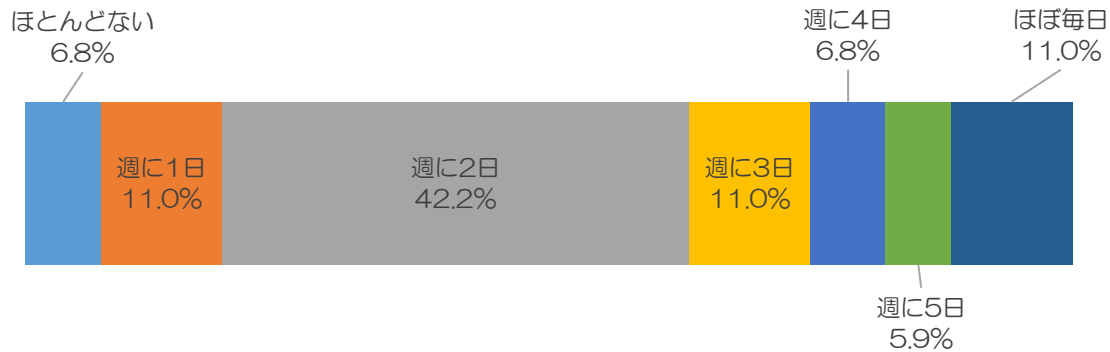
現在の労働時間別にみると、10時間未満（67人）では「現状のままでよい」（32人）との回答が多いのですが、10時間以上（51人）になると「残業時間がもう少し減るとよい」（28人）が多くなり、長時間労働になるほど、労働時間や働き方の変化を求める回答が増えています。

■家族で夕食を取る日数

家族で夕食を取る日数は週に2日で、仕事が休みの日くらい

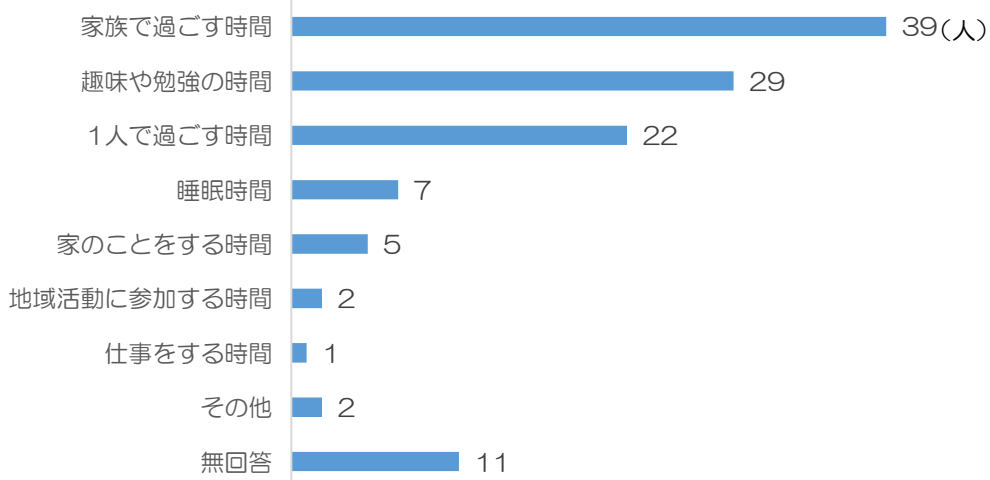
<家族で夕食を取る日数>

1週間のうち家族で夕食を取る日数は「週2日」がもっとも多く、42.4%。これに「週に1日」（11.0%）と、「ほとんどない」（6.8%）を合わせると6割を超えます。また、週に1日、2日というのは仕事が休みの日で、平日は家族の夕食に合わせて帰宅することが難しく、1人で夕食を取るケースが多いことがインタビュー調査からわかりました。



■ほしい時間

ほしい時間は、「家族で過ごす時間」



<ほしい時間>

普段の生活の中でもっともほしい時間は「家族で過ごす時間」（39人）。調査対象者は自分自身の時間もあまりないのが現状ですが、時間があれば自分自身の時間よりも家族との時間を優先したいと望んでいます。インタビュー調査では、あと1時間でも早く帰れたら家族と過ごす時間がもてるとの声がありました。

※調査結果は、エル・ソーラ仙台 図書資料スペースで閲覧できます。

（公財）せんだい男女共同参画財団